
リリカルマジカルハードモード

煉瓦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルマジカルハードモード

【Zコード】

Z3318BA

【作者名】

煉瓦

【あらすじ】

魔法少女リリカルなのはとか言う世界に転生せられた俺。女神に告白されるし敵は魔法少女ものとは思えないぐらい強いし姉は過保護?だし……。俺はこれからどうなるの!?

プロローグ 気がついたら女神に告白をしました（前書き）

つい衝動的に書いてしまった

これからは両方更新していく予定。

プロローグ 気がついたら女神に告白をされました

気がついたら知らない天井だった。
テンプレか……

「君、失礼な事考えたよね今」

目の前には金髪の女性が、所謂女神だと思つがいた。

「まあ、いいわ。分かつてると思つたけど死後の世界みたいなものだから」

神のミスってやつか？

「はあ？ 神様がそんな簡単にミスするとでも思つてるわけ？ バカなの？」

「ちょっとイラッと来た。
じゃあ、なんなんだよ？」

「そんな事もわからないの？ 普通に事故死して来たに決まってるじゃない」

「びつやうじれが普通らしい。」

「まあ、あなたは特別だけビー。」

特別なんかい！

じゃあ、俺はこれからびつなるんだ？

「テングプレに転生してもううわー 暇だからー」

「やつぱりテングプレかい！」

「まあ、あなた以外にも何人か前にミスつて殺しちゃった人よんだけどね。テヘッ」

「テヘッ ジャねーよ。やつぱりミス多いんじゃねーか。

「まあ、特典寄越せとか煩かつたから虫になれる能力とか、女性の下着を被つたら強くなる能力とか適当にあげたけど。貴方もいる？」

「そんな変な能力いらねーよ！」

「まあ、なんて無欲な人間。うん。顔とか好みだから色々強いのあげちゃう。あ、私の処女とかもいる？」

「いらないよ？ 急に何言い出すんだよー！」

「ケチ。ヘタレ。童貞。男好き」

「最後のは否定させてもらおうか？」

「私貴方に恋しちゃったの。好き。抱いて！」

「そう言うと女神は急に抱きついて来た。
まあ、華麗に避けるんですけどね。」

「キヤウン。痛い……」

事項自得だな。

ところより特典とかいらないんだが。

「え、もひ移し終えたけど……」

はあ？ こつだよ？

「うーん。処女貰つてぐらーからっ」

速攻で終わらしてますね！

「まあまあそり怒りすに。そりだ特典の説明してあげる」

まあ、貰つたからには説明を受けておへよ。

「じゃあ、そのー。まず君が行く世界は魔法少女リリカルなのはって世界だから、ミシードの魔法とベルカの魔法を使える様にしといたよ」

リリカルなのは？ あんまり知らないな。高町なのはってのが魔王でフロイトが百合。はやてがおっぱい魔神でシグナムがニート侍でヴィータがエターナルロリータぐらーしか知らないな。

あれ、以外と知ってる？

「うん。色々と間違つてるね。じゃあそのー。直感力みたいなのが優れてる。だから武器とかも直感的に操れるー。」

へえ。まともだな。

「その3。魔力変換素質「風」。ちなみに風は持つてる人とかいな
いから「炎熱」とか「電気」みたいに名前が無いんだよね。颶風と
か狂飄とかでも好きに呼んで良いよ」

まあ、早い話が風を操れる力?

「じゃあ最後に、相手の技術を吸収し戦えば戦つほど強くなる」

あれ、意外とチートじゃ無い?

「だつてチート過ぎると面白くないでしょ?」

面白い面白くないじゃ無いと思つけどな。

「あ、最後にこれあげる」

そう言つて渡して来たのは鎖だった。

「それはね。インテリジェントデバイスって言つて魔法の補助装置
みたいなものだよ。ちなみに長さとか大きさを変えられるから」

へー。

「ちなみにインテリジェントデバイスには意思が宿ってるんだけど
その意思私だから」

は? ビうこうつ事?

「私はここを離れちゃいけないからね。その鎖に私と通信出来る機
能をつけてついでに向こうの世界でインテリジェントデバイスつて

呼ばれてる物みたいに改造しただけだよ。貴方と片時も離れたく無いから！」

あれが、簡単に言つたら向ひの世界ではインテリジョン・ト・デバイスって呼ばれるけど実は魔法補助してくれる女神か。

「そんなところ。まあ携帯電話みたいな感じ… ちなみに起動時は色々な武器になるよ。あと名前は私の本名のレイシスだから。気軽にレイシス呼んで！」

はあ、面倒だ。

「さあ、転生したらなにする？ 私一応ここから離れちゃいけないけど、その鎖があつたら貴方のもとにひとつ飛び出来るよ…」

ひとつ飛びして何する気だよ。

「え、もう… そんな事言わせないでよ…」

ダメだ」こつ。早くなんとかしないこと。

「あ、ちなみに他の転生者とかには氣をつけたね。何人か強めの能力持つてつたから」

いや、渡したのはお前だろ？

「気にしない気にしない。さあ、新しい人生を楽しみなさい！」

そう言って俺の足元に黒い穴が開き落とされた。
最後までテンプレだなおい。

プロローグ 気がついたら女神に告白されました（後書き）

てなわけで新連載。

一応もうひとつの方もこれからは更新頻度が上がると思つよー。
ハードモードとか言いながらハードなのはまだ結構先と言つ……
あと、間違つた原作知識とかは作者にも言えることだと思つから覚
えといでね！
てなわけでこれからよろしくね！

第1話 姉がプラコン遇到で困る

「んにちは、転生させられた火花紅次だ。^{ひばなこうじ}

ちなみに紅次ってのは俺の名前な。

しかし赤ちゃんからやり直しはやつぱり恥ずかしいな。

まあ、肉体に引っ張られたのか当時はそこまで羞恥心が無かつたが

……

今は4歳だ。一つ上の姉がいるんだが……俺の事を愚弟とかよぶくせにプラコンだ。

風呂は絶対に一緒に寝る時も一緒に。常に俺をそばに置いておかなければ落ち着かないらしい。

「あやねえなにしてるの?..」

ちなみにあやねえとは姉の事だ。^{あやか}彩花だからあやねえ。

「そんな事もわからないの? 今貴方のアルバムを整理していくとこうよ

手元を覗きこめば確かに俺の写真や俺とあやねえが写った写真がズラリと並べられている。

ちなみにこれでアルバムは10冊めになる。

俺は身の危険を感じあやねえからそつと離れる。

幸い姉は写真を見てキャーキャー言っているから暫く気付かないだろい。

俺の父と母は管理局とかいうところで働いている。

それなりに偉いのかあまり家に帰ってこない。

だからあやねえはブランコになったのかもしれない。

今更だが俺とあやねえの見た目を軽く説明しよう。

俺は紅い髪の毛を適当に伸ばしている。今は軽く肩にかかるぐらいだ。瞳も紅く両つきが悪くよく人に誤解されやすい。

あやねえは俺と同じ色の髪を腰辺りまで伸ばしていく綺麗だ。

瞳も俺と同じで紅い。

けどあやねえは周りに優等生として見られている。実態はブランコなのに。

ちなみに二歳ぐらいの時に鎖のデバイス？レイシスが首に架かっていた。

あの時はあやねえが「愚弟が不良になつた！」とうるさかつたな。

さて、現実逃避はやめようか。

「あやねえにしてるの？」

現在あやねえに腕を掴まれて身動きが出来ません。
てか、気づかれないように離れたのに掴まれるとほ。

「どうに行こうとしてたのかな？」

「ちょっとトイレに」

「なら、私も一緒に行くわ

「あ、もつだいじょうぶかむー。」

なぜトマトまでこって来よつとする。

「アリ。じゃあこの賢姉と一緒にアルバムを見ましょひ

やつて後ろから抱きしめて座りたれ。

これじゃあ逃げられん。

アルバムって過去の恥ずかしいの見なぐりやいけないから嫌いなんだよな。

とか思いながら2時間ぐらいアルバムを見続けていた。

あやねえ。俺が知らない『真がいつぱいあるよ。またか盗撮?』
あつと将来あやねえは変態になると思ひ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3318ba/>

リリカルマジカルハードモード

2012年1月8日19時48分発行